

2024年3月期 決算説明会

株式会社RYODEN

2024年5月21日
東証プライム
証券コード 8084

1. 2024年3月期 実績
2. 2025年3月期 予想
3. セグメント別情報・トピックス
4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて



1. 2024年3月期 実績

2024年3月期 実績



(百万円)	2023年3月期	2024年3月期	対前年 増減額	対前年 増減率
売上高	260,303	259,008	△1,295	△0.5%
営業利益	9,380	8,326	△1,054	△11.2%
経常利益	9,077	8,236	△841	△9.3%
当期純利益	5,366	5,736	370	+6.9%
ROE ※1	7.0	6.9		△0.1pt.
ROA ※2	6.2	5.4		△0.8pt.
営業利益率	3.6%	3.2%		△0.4pt.

- サプライチェーンの回復による出荷増や車載市場の好調で堅調に推移。
- 売上高微減、営業利益減益も親会社株主に帰属する当期純利益は過去最高となった。

※1 自己資本当期純利益率

※2 総資産経常利益率

財務の状況



(百万円)	2023年3月期	2024年3月期	対前年 増減額	対前年 増減率
総資産	151,049	156,027	4,978	+3.3%
負債	71,150	68,944	△2,206	△ 3.1%
純資産	79,898	87,083	7,185	+9.0%
自己資本比率	52.8%	55.7%	—	+2.9pt.

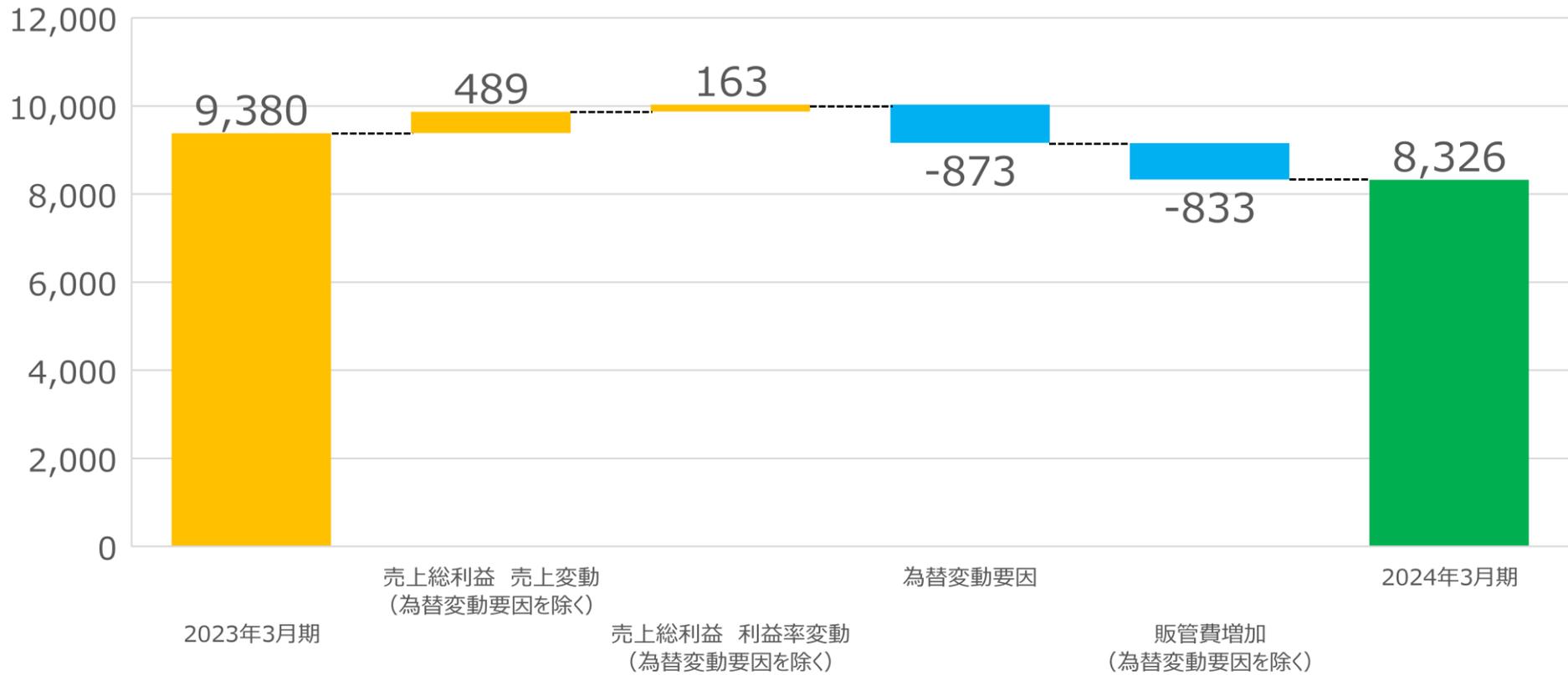
(百万円)	2023年3月期	2024年3月期	対前年 増減額
営業活動CF	△199	9,942	10,141
投資活動CF	△1,251	△710	541
財務活動CF	△115	△2,283	△2,168
現金及び現金同等物	11,091	18,422	7,331

営業利益の増減益分析(2023年3月期-2024年3月期)



■ 増加 ■ 減少 ■ 合計

単位：(百万円)



- 為替の影響を除くと売上総利益は増加 (+6.5億円)。
- また為替の影響は23年3月期と比較して減少 (23年3月期：+14.5億円 24年3月期：+5.8億円)
- 販管費の内訳はDX関連費用、技術戦略関連費用、プロモーション、開発投資など



2024年3月期 セグメント別業績実績

FAシステム

項目 (単位 : 百万円)	2023年3月期実績	2024年3月期実績	前年同 期 比
売 上 高	46,294	52,039	+12.4%
営 業 利 益	1,704	2,599	+52.6%
営 業 利 益 率	3.7%	5.0%	+1.3pt

- 工作機械向けは低調に推移、盤メーカー及び半導体製造装置メーカー向けの販売が好調だったことに加え、エンドユーザー向け大型設備投資案件の獲得に注力したことで好調に推移

冷熱ビルシステム

項目 (単位 : 百万円)	2023年3月期実績	2024年3月期実績	前年同 期 比
売 上 高	27,259	30,891	+13.3%
営 業 利 益	1,071	1,638	+53.0%
営 業 利 益 率	3.9%	5.3%	+1.4%

- 冷熱:製造業の設備投資やインバウンド需要が回復したことで業務用パッケージエアコン・低温設備機器の販売が好調に推移
- ビルシステム:建設市場の資材高騰・工期長期化の影響を受けたものの、昇降機設備や環境・省エネ設備案件などのビルマネジメント分野の受注を獲得したことで好調に推移



2024年3月期 セグメント別業績実績

X-Tech (クロステック)

項目 (単位: 百万円)	2023年3月期実績	2024年3月期実績	前年同期比
売上高	5,709	6,106	+6.9%
営業利益 (損失)	△311	△317	-
営業利益率	△5.5%	△5.2%	-

- ヘルスケア：医療関連の設備投資が落ち込んだことでIT関連機器をパッケージ化して提供するサブスクリプションサービス「トータルパックIT」等の販売が低調
- ICT：ビデオマネジメントシステムやRFID関連製品の販売が減少したがIT関連機器の販売が好調
- スマートアグリ：電気代高騰等の影響を受け低調に推移したものの、25年度以降再投資局面に入ることを見込み植物工場野菜の研究開発・生産・販売・ブランディングを提供できる体制を構築中

エレクトロニクス

項目 (単位: 百万円)	2023年3月期実績	2024年3月期実績	前年同期比
売上高	181,130	170,031	△6.1%
営業利益	7,335	4,914	△33.0%
営業利益率	4.0%	2.9%	△1.1pt

- 国内：車載市場でインフォテインメント機器向けSoC (System-on-Chip) やメモリ、センサーIC等の販売が堅調。産業機器市場では顧客の受注残による生産が継続したことでパワーデバイス等の販売が堅調に推移。ただし中国の景気減速の影響を受け年度後半は低調
- 海外：東南アジア地域の車載関連向けメモリ等の販売が堅調に推移。しかしながら、中国地域における民生・産業機器関連向けアナログ半導体等の販売が低調に推移



2. 2025年3月期 予想

2025年3月期 業績予想



(百万円)	2024年3月期	2025年3月期 予想	対前年 増減	対前年 増減率
売上高	259,008	219,000	△40,008	△15.4%
営業利益	8,326	7,200	△1,126	△13.5%
経常利益	8,236	7,300	△936	△11.4%
当期純利益	5,736	5,300	△436	△7.6%

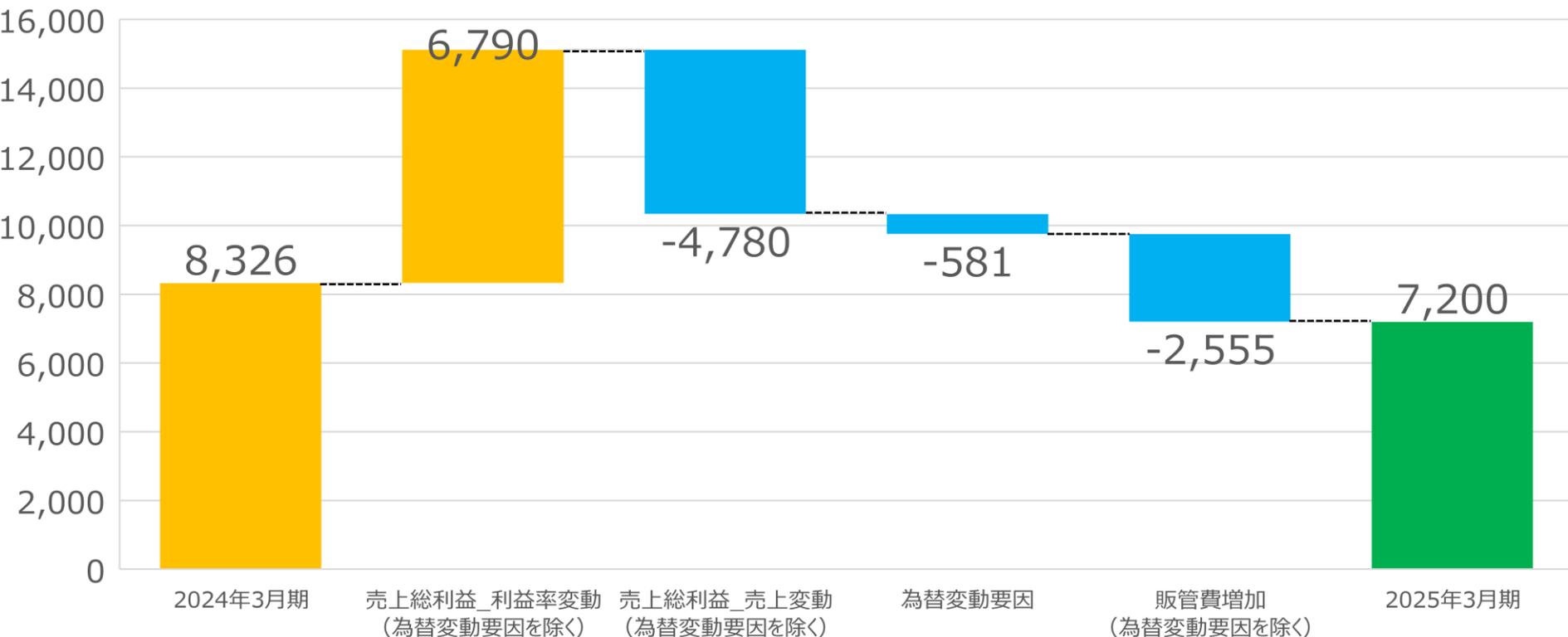
- ルネサス製品の販売終了等で、25年3月期の売上高は約15%減少を予想。
- 利益率の改善により売上総利益は増益の見込であるものの、様々な先行投資により営業利益は減益の見通し。

営業利益の増減益分析(2024年3月期-2025年3月期)



単位：(百万円)

■ 増加 ■ 減少 ■ 合計



- 利益率の改善により売上総利益は増益を見込む (+20.1億円)
- 2025年3月期の為替前提は1ドル=140円とし、期末予想に為替変動の影響は含んでいません (23年度+5.8億円⇒24年度予想±ゼロ)。
- 持続可能性や収益力の向上を目的とした先行投資・費用投入により販管費が増加 (+25.6億円)。販管費増加の主な内訳は人的資本投資、開発投資、技術戦略関連費用、プロモーション関連などです。

Purpose : 当社が進むべき道しるべ

**人とテクノロジーをつなぐ力で
“ワクワク”をカタチにする**

ビジョン : 2050年の目指す姿

**100年企業として「環境」「安心」「安全」で
サステナブルな社会の実現に貢献する**

あるべき姿 : 2024年のRYODEN

**代理店、商社の枠を超えた事業創出会社として
新たな価値を生み出しつづける**



戦略テーマ

デジタルトランスフォーメーションの推進

- 成長事業のビジネスモデルの確立と次世代新規ビジネスの創出
- 基幹中核事業における生産性向上
- 事業推進基盤の強化

注力推進 分野

経営目標

環境・安心・
安全

営業利益

100億円以上

新事業売上

220億円以上

新事業総利益率

18.0%

ROE

8.0%



中期経営計画と今期の予想について

経営指標	2024年3月期実績	2025年3月期見通し	中期経営計画 最終年度目標
営業利益	8,326百万円	7,200百万円	10,000百万円
営業利益率	3.2 %	3.3%	3.8%
新事業売上高	11,138百万円	21,000百万円	22,000百万円
新事業売上 総利益率	14%	16%	18%
ROE	6.9%	6.2%	8.0%

<課題認識>

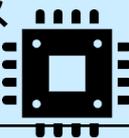
- スマートアグリの実業環境の激変に加え、エレクトロニクスにおける主要取扱製品の販売終了などの影響もあり、中計で掲げた経営目標値の達成はいましばらく時間がかかる見通し。
- このような環境変化をさらなる成長の機会と捉え、FAシステム・冷熱ビルシステム、スマートアグリなどそれぞれの事業において成長戦略の着実な推進を行います。



3.セグメント別情報・トピックス



セグメント別 課題認識と企業価値向上の施策

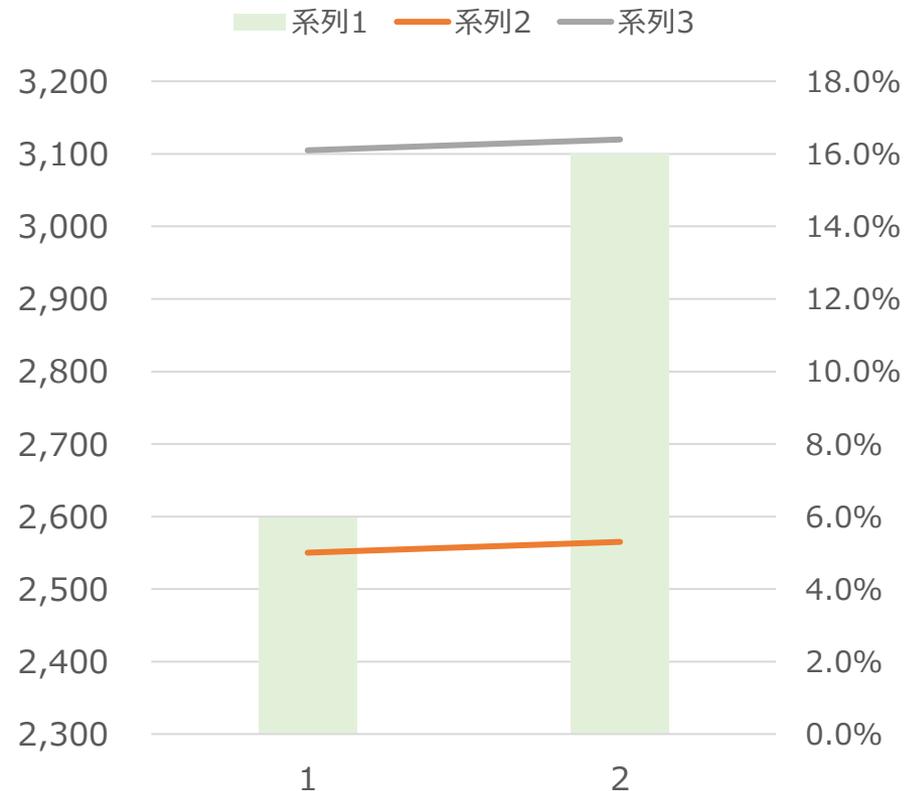
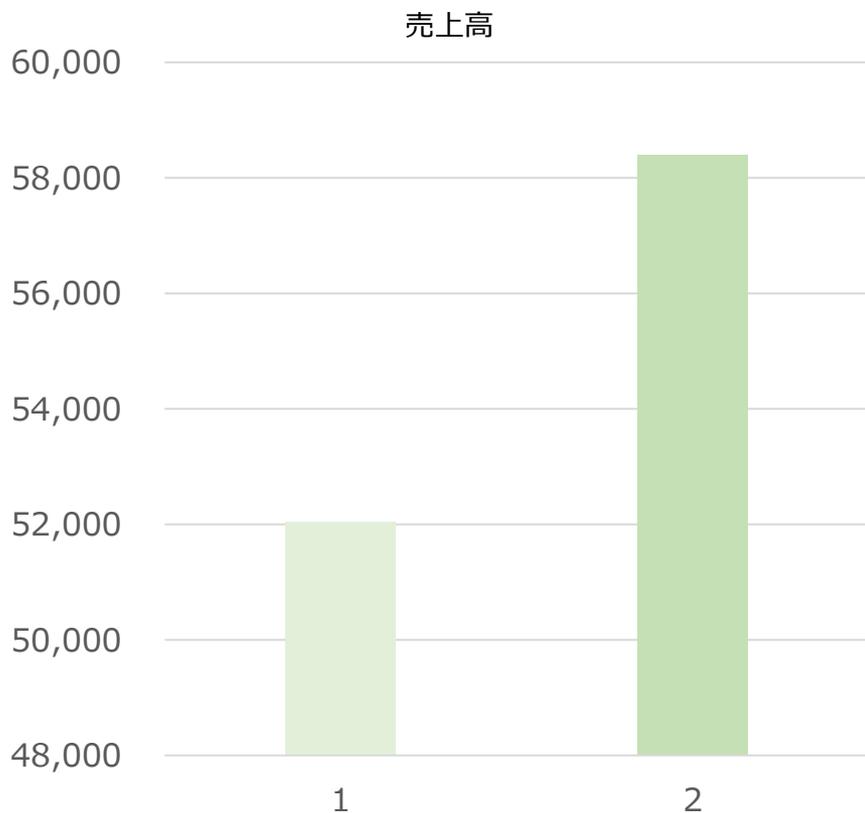
	FAシステム 	冷熱ビルシステム 	X-Tech (クロステック) 	エレクトロニクス 
社会課題との関係	<ul style="list-style-type: none"> ● 労働力不足への対応 ● 再生可能エネルギー普及 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地球温暖化対策 ● 省資源 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食糧問題 ● 医療従事者の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ● 省エネ ● 高度な情報化社会
機会	<ul style="list-style-type: none"> ● 労働力不足、生産効率向上のための自動化技術のニーズ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 持続可能な社会の実現に向けた環境への負荷抑制 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地球温暖化、スマート農業の大幅な拡大 ● 医療現場のDX化需要増 	<ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー効率の向上 ● IoT製品の需要増加 ● 自動安全技術の向上
リスク	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内製造拠点の海外流出、地政学リスクなど製造業への予測不能な影響 	<ul style="list-style-type: none"> ● 資材高騰、労務費高騰などに起因する建設・設備投資の鈍化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 資源高（電力・輸送費） ● パンデミックなどの医療崩壊 	<ul style="list-style-type: none"> ● 競合他社との競争激化 ● 技術革新への対応
企業価値向上のための施策	<ul style="list-style-type: none"> ● 製造業DXを切り口にトータルソリューションを提供 ● 統合監視制御システム（Remces）の販売拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ● メーカーとの縦の連携からお客様が求める価値にお応えするソリューションへ視点を変革して事業ドメインを拡大、他社ではできない価値を提案、販路を拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ● 植物工場野菜の特長を生かせる市場を自ら創出するとともに光合成エンジンリング技術をフードテック市場に展開 ● 医療ITソリューションビジネスに注力 	<ul style="list-style-type: none"> ● パワーデバイス・アナログ・センサーなどの販売を拡大 ● マーケティング機能を強化し車載を中心とした新規顧客の開拓と既存顧客への拡販強化
当社の強み	<ul style="list-style-type: none"> ● 4つの基幹事業で培ってきた強みを掛け合わせ、新たな価値を創出 ● 最先端のICT技術を駆使し、一步先を行くソリューションを提供 ● 国内27拠点、海外21拠点のグローバルネットワークを構築 			

2025年3月期 セグメント別業績予想



FAシステム

項目 (単位: 百万円)	2024年3月期実績	2025年3月期予想	前年同期比
売上高	52,039	58,400	+12.2%
営業利益	2,599	3,100	+19.3%
営業利益率	5.0%	5.3%	+0.3pt
売上総利益率	16.1%	16.4%	+0.3pt



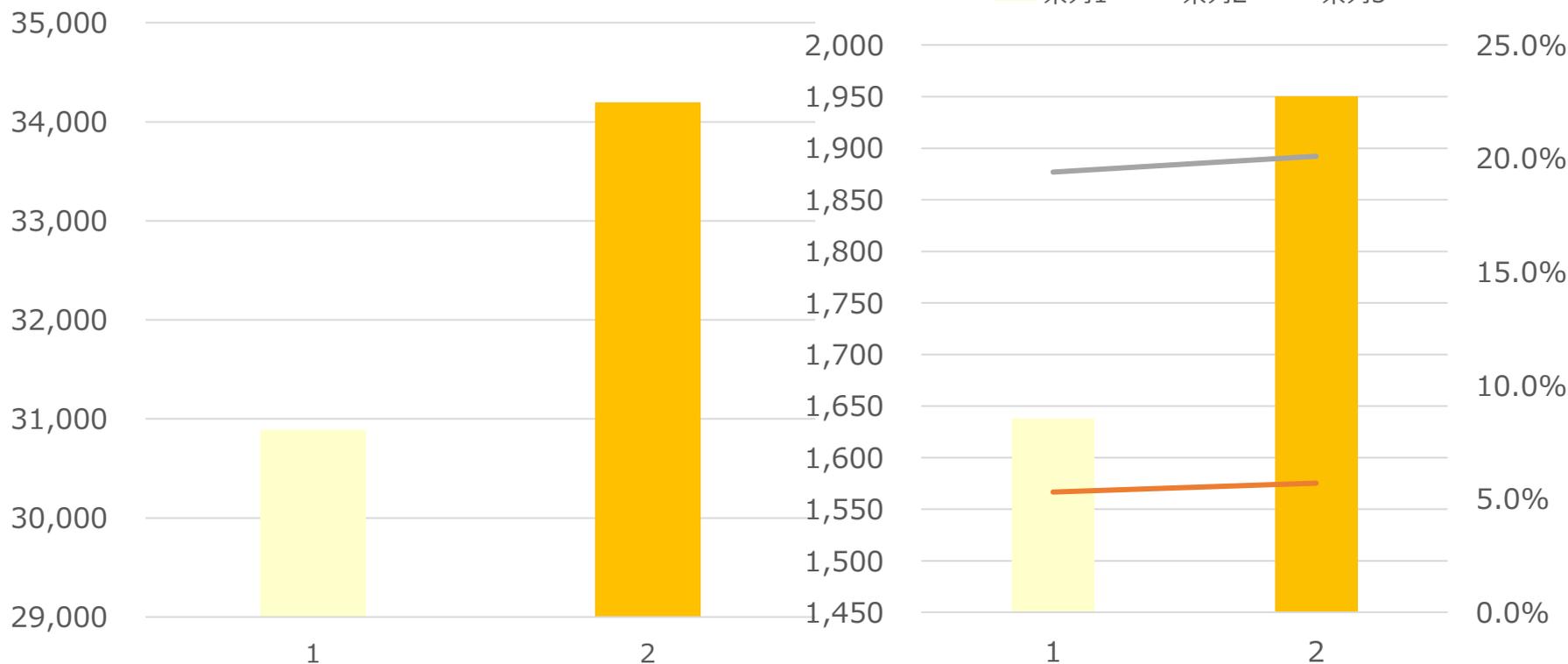
2025年3月期 セグメント別業績予想



冷熱ビルシステム

項目 (単位: 百万円)	2024年3月期実績	2025年3月期予想	前年同期比
売上高	30,891	34,200	+10.7%
営業利益	1,638	1,950	+19.0%
営業利益率	5.3%	5.7%	+0.4%
売上総利益率	19.4%	20.1%	+0.7pt

売上高

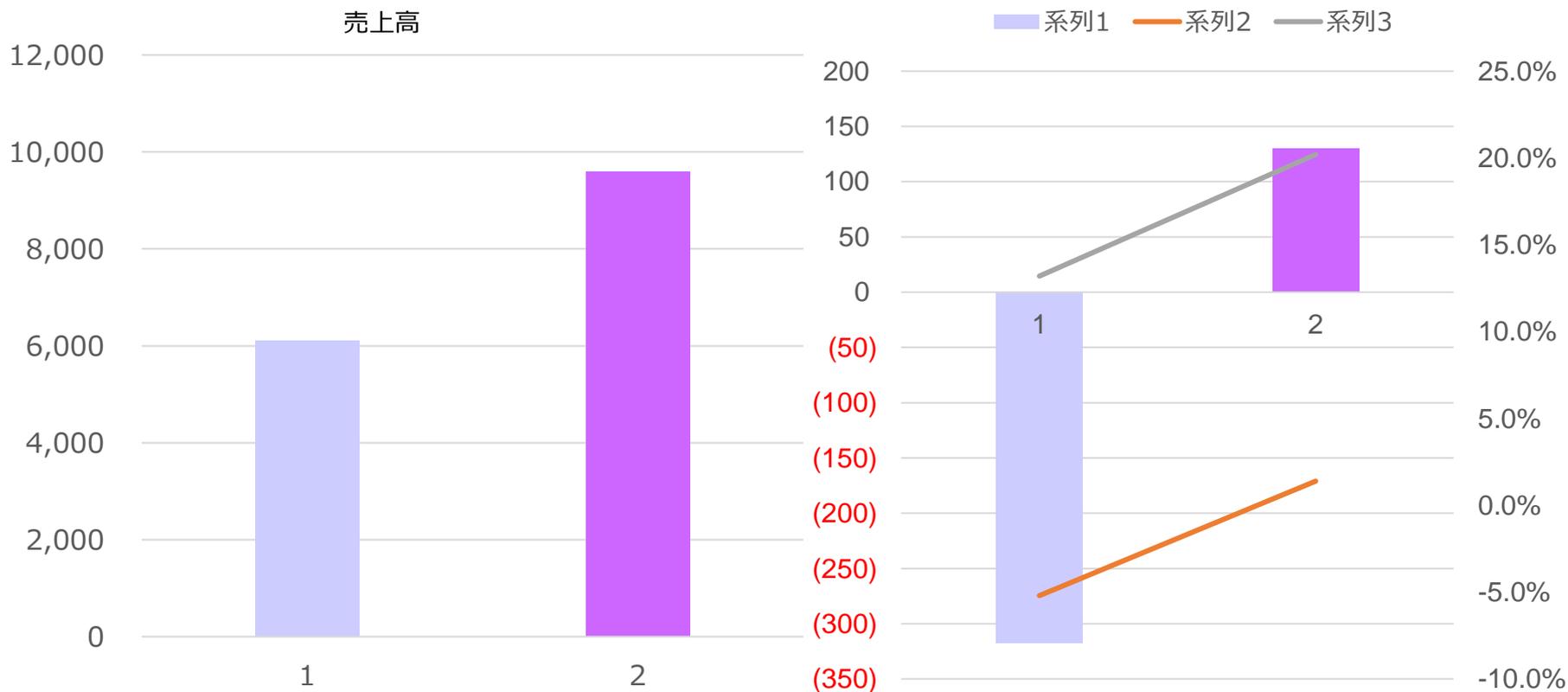


2025年3月期 セグメント別業績予想



X-Tech (クロステック)

項目 (単位: 百万円)	2024年3月期実績	2025年3月期予想	前年同期比
売上高	6,106	9,600	+57.2%
営業利益 (損失)	△317	130	-
営業利益率	△5.2%	1.4%	-
売上総利益率	13.2%	20.2%	+7.0pt



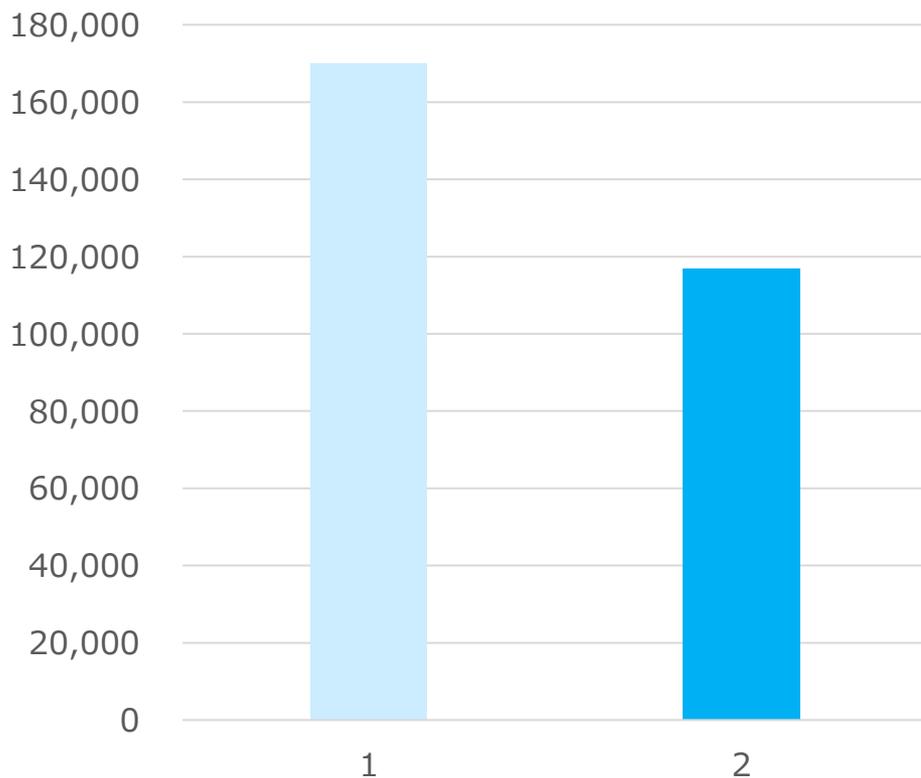
2025年3月期 セグメント別業績予想



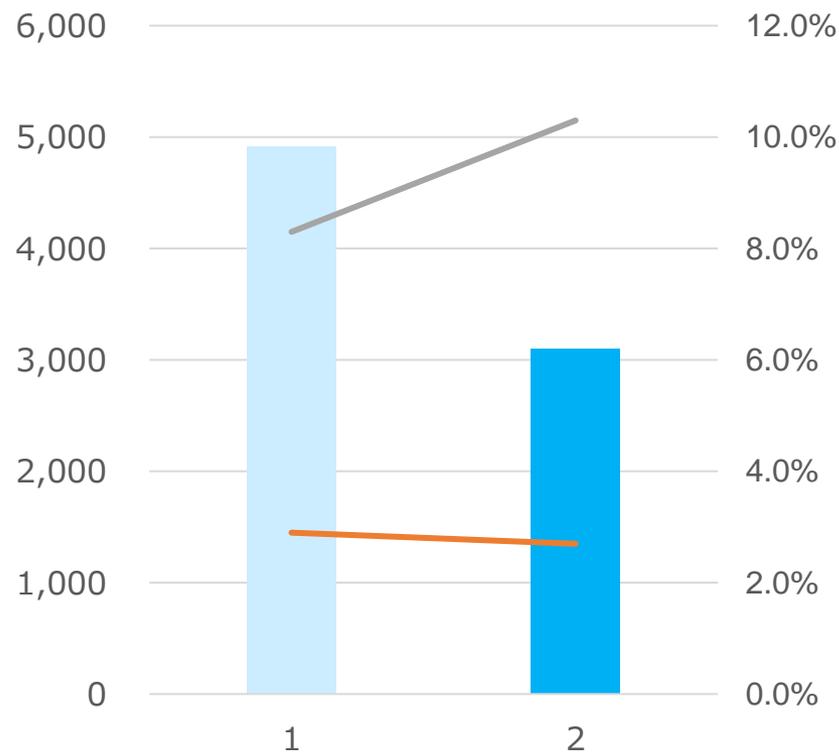
エレクトロニクス

項目 (単位: 百万円)	2024年3月期実績	2025年3月期予想	前年同期比
売上高	170,031	116,800	△31.3%
営業利益	4,914	3,100	△36.9%
営業利益率	2.9%	2.7%	△0.2pt
売上総利益率	8.3%	10.3%	+2.0pt

売上高



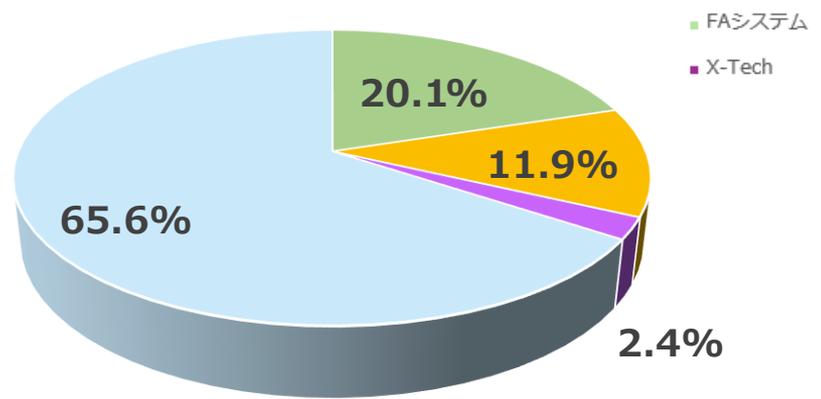
系列1 系列2 系列3



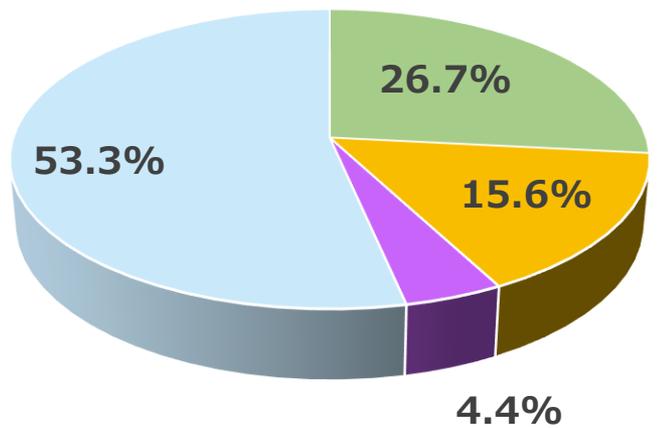
2025年3月期 セグメント別構成比 (2年比較)



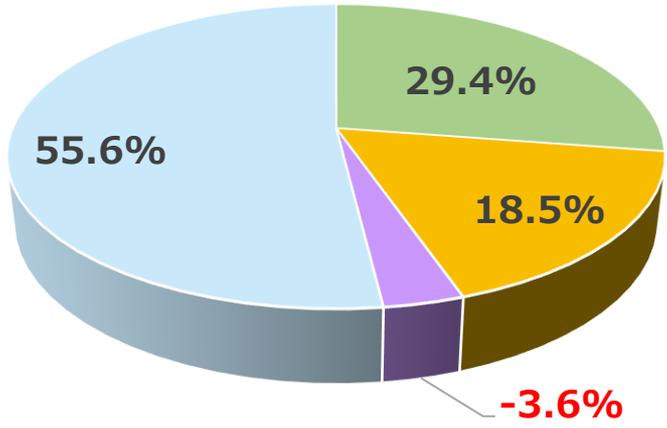
売上高構成比率 (2024年3月期)



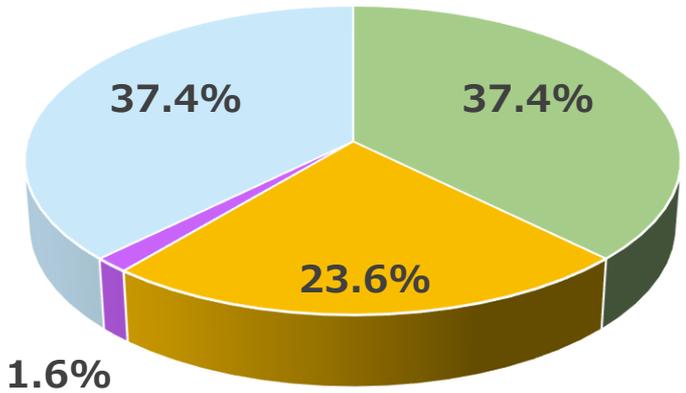
(2025年3月期)



営業利益構成比率 (2024年3月期)



(2025年3月期)



※2024年3月期のX-Techは営業損失のため、エレクトロニクスの枠に含めて表示しています。
 ※営業利益の全体の構成には、全社費用を含んでおりません。



FAシステム 2025年3月期業績予想

主なポイント



- 半導体製造装置向けは生成AI・データセンタ需要が継続、年度後半のメモリへの本格投資に伴い好調に推移する見込み
- 工作機械・半導体製造装置関係の需要回復が年度後半に期待される

■分野・製品別予想（対2024年3月期実績 +：増加 ±：横ばい -：減少）

取 扱 製 品	用 途	売 上 増 減	利 益 増 減
サ ー ボ シ ス テ ム	各種産業機械の駆動制御など	±	±
P L C (設備用制御コントローラ)	生産設備・各種産業機械の自動制御・データ収集など	±	±
N C 装 置	工作機械、自動車など	+	+
システムエンジニアリング	自動化/省人化・DX・エネルギー管理システムなど	+	+



主なポイント



- 冷熱システムは、国内建設投資の緩やかな回復により、主力機種のパッケージエアコンやチリングユニットの販売が拡大し堅調に推移する見込み
- ビルシステムは、国内建設工事は活況ながら工事の高負荷・長期化が継続し、基幹ビジネスであるエレベータは横ばいに推移する見込み。

■分野・製品別予想（対2024年3月期実績 +：増加 ±：横ばい -：減少）

取 扱 製 品	用 途	売 上 増 減	利 益 増 減
パッケージエアコン	商業施設、オフィスビル 工場、倉庫、教育施設	+	+
チリングユニット	工場、倉庫、データセンタ、医療施設 ほか	+	+
冷 凍 機	製造現場、食品加工、医療施設、農業 施設ほか	±	±
エ レ ベ ー タ	ビル建築物全般	+	±



主なポイント



- ヘルスケアは医療機関の設備投資が緩やかに回復し増加の見込み
- ICTは顧客の拡大により販売は増加の見込み
- スマートアグリは次世代農業・フードテック参入企業向け新サービスを構築

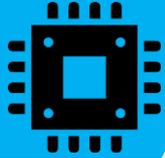
■分野・製品別予想 (対2024年3月期実績 + : 増加 ± : 横ばい - : 減少)

取扱製品	用途	売上増減	利益増減
ビデオマネジメントシステム	製造現場、オフィスなど各種ビジネスシーン	+	+
メディカルファシリティ	医療施設全般	+	+
次世代農業システム	植物工場・フードテック参入企業	+	+



エレクトロニクス 2025年3月期業績予想

主なポイント



- 国内：大口顧客の商流変更で減収
- 欧米：車載関連が横ばい
- 中国：経済活動の緩やかな回復から増収
- 東南アジア：車載向けの販売が増加

■分野・製品別予想（対2024年3月期実績 +：増加 ±：横ばい -：減少）

取 扱 製 品	用 途	売 上 増 減	利 益 増 減
メモリ	車載用途、ネットワーク機器、各種コンピュータ	±	±
マイコン	各種モーター、センサー、ロボット、IoTデバイス	-	-
パワーデバイス	モータードライブ、電源供給装置、EV、産業用機械	+	+
センサー	各種車載製品	+	+



エレクトロニクス事業についての補足

2024年1月30日開示のとおり、同年3月31日をもって、当社はルネサスエレクトロニクス株式会社製品の取り扱いおよび販売を終了いたしました。

本件は、2025年3月期以降の当社業績に少なからず影響はありますが、今後は以下に掲げる2つの重点強化施策に経営資源を注力し、売上高および営業利益の回復、向上を目指してまいります。

■エレクトロニクス事業の今後の重点強化施策

取 扱 製 品	用 途	当 社 の 強 み ・ 今 後 の 展 望
①次世代パワーデバイス	自動車、産業機器 電源用途	EVや鉄道、太陽光発電などの用途で急拡大が見込まれるSiC（炭化ケイ素）や小型電源などの用途拡大が見込まれるGaN（窒化ガリウム）などの次世代パワー半導体のポートフォリオ拡充を図る。
②モジュール・システム化	全般	デバイス商材をRYODENオリジナルで組み合わせモジュール化、システム化も含め高付加価値製品を提供。



トピックス① 新たな事業ブランド「RYODEN Tii！」を策定

ブランド価値向上で、事業創出会社への変革を加速



2024年2月に新たな事業ブランド「RYODEN Tii！」を策定しました。「RYODEN Tii！」は、基幹ビジネスで培った当社の強みである「現場力」から生まれた新事業の象徴として主要な6つのオリジナル製品群を総称する事業ブランドです。「RYODEN Tii！」における「Tii」は、「This is it」の頭文字で、「その手が、あったか。」を意味し、当社の「お客様の潜在課題を解決する力」を表現したものです。ブランド価値の向上と事業領域の拡大で、事業創出会社への変革を加速させます。

■ 「RYODEN Tii！」製品ラインナップ（これから増やしていきます）

製品名	セグメント区分	内容
Remces (レムセス)	FAシステム	収集したデータの可視化・分析・制御により生産効率、エネルギー効率、環境最適化を実現する統合監視制御システム
R-AX (アール エー エックス)	X-Tech	データとデジタル技術を活用し、次世代農業・フードテック分野の商品や サービス、ビジネスモデルを変革する当社独自のシステムとサービス
トータルパックIT	X-Tech	医療機関の DX 化支援と管理負担削減を実現する、医療機関向け IT 機器・ システムの一括提案・長期保証（10 年）サービス
Pescle (ペスクル)	エレクトロニクス	食品工場などで省力・省人化した衛生管理状況構築を実現する、ペスト コントロールを支援するクラウド型 AI 害獣・害虫監視サービス
FlaRevo (フラレボ)	X-Tech	ICT を活用した製造現場の見える化（映像・データ）を実現する、ビデオ マネジメントシステム
ATLAS-Things (アトラス シングス)	X-Tech	製造業向けにパレットや通函、専用容器などを、RFID 等により個品管理することで「モノ」の入出荷記録が見える化するクラウドサービス



トピックス②新技術開発施設「RYODEN-Lab.」を開設

戦略技術センターの技術を集約し、提案力、イノベーション力を強化



戦略技術センターの事業創出力を加速する目的で2024年2月に「RYODEN-Lab.」を開設しました。全社の技術を統括し、新事業の創出、提案力を高めイノベーションを生み出す拠点として、運用を開始しています。

RYODENが事業創出会社へと変革する象徴的な拠点として活動していきます。

RYODEN-Lab.

■ 技術開発テーマ

技術開発テーマ	提供ソリューション例	カテゴリー
協働ロボット活用技術 AIマシンビジョン画像認識技術 入在庫管理ソリューション	複合型ロボット FLOX-AI ATLAS-Things	自動化・省人化・可視化
害獣・害虫遠隔監視ソリューション 振動データ分析技術 ディープラーニング画像処理技術 製造業向けサイバーセキュリティ 次世代無線通信技術 (sXGP)	Pescle 予兆保全 FlaRevo 遠隔保守サービス プライベートLTE	AI・DX・セキュリティ・通信
生産効率、エネルギー効率、環境最適化技術	Remces	環境・脱炭素・省エネ



トピックス③産学連携の強化による事業の創出

事業創出会社として革新的な価値を創造

信州大学とはっ水機能を施すレーザー加工機を共同開発

金属や樹脂の表面に生物を模倣した模様を加工し、はっ水性などの新たな機能を付与できる専用のレーザー加工機を信州大学繊維学部と共同開発しました。**生物模倣技術 (バイオミメティクス) の専用加工機としては世界初**です。

親水／はっ水性、無反射、耐候性などといった表面修飾は現在化学コーティングが主流ですが、それらの原料は石油であり、カーボンニュートラルの観点から使用量の削減が求められています。

この新しいレーザー加工装置は車載カメラのレンズ・血管のつまりを防ぐステントと呼ばれる医療用具・電池の電極など社会ニーズの高い様々な分野での活用が期待されており、一部ではすでに事業化が進んでいます。



小型微細レーザー加工機

新潟人工知能研究所・事業創造大学院大学と生成AIの事業への応用に関する協業を開始

生成型人工知能 (AI) 技術の事業領域へ応用するための協業を(株)新潟人工知能研究所・事業創造大学院大学と開始しました (2024年5月～)。

生成AIを活用した技術開発において、RYODENが事業への適用を、新潟人工知能研究所がAI技術の研究を、事業創造大学院大学が事業応用開発と人材の育成をそれぞれ担当します。

この取り組みは、製造業など多岐にわたる業界でのケーススタディの展開、新しい顧客体験の創造、業務プロセスの効率化と自動化の推進など実用的な応用につながります。これらの技術応用を通じ、デジタルトランスフォーメーションの促進と持続可能な社会の実現に貢献していきます。





トピックス④新たな価値創造 「ウイズプロ」開始

商社の枠を超える付加価値として、製造業を中心とした企業の経営課題解決に貢献

「ウイズプロ」の概念図



当社は「プロ人材の紹介」という商社の枠を超えた新たな付加価値で、価値の創造を目指します。

私たちは創業以来、技術商社としての高い営業力を武器に製造業を中心とした5,000社を超える企業との取引実績を持ち、信頼関係を構築してきました。

現在こうした企業においては、プロ人材の不足が喫緊、且つ共通の課題として顕在化しています。

高度なスキルを有する人材の不足に悩む企業と、様々なフィールドで経験を積み活躍してきたプロ人材を繋ぎ、双方の支援を目的として開始したサービスです。

「ウイズプロ」の概要

名称	プロフェッショナル人材マッチングサービス「ウイズプロ」
対象	製造業をはじめとした全企業
対象領域	経営戦略構築、新規事業・商品開発、SDGs・ESG対応、DX化、マーケティング、営業組織強化、SCM構築・改善、生産性強化、物流構築・改善
プロ人材	約2,000人
当社の強み	75年以上培ってきた販売・事業開発ナレッジ/ノウハウ、商流、豊富な取引先企業、豊富な知見・経験にもとづく顧客ニーズとプロ人材ニーズの高精度マッチング、等



4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

1.収益力の強化

2.株主還元の強化

3.IR活動の強化

PBR改善の施策

PBRの改善

ROEの改善

- ・資本コストを上回ることを意識した経営
- ・ROICを用いた収益性、成長性の向上



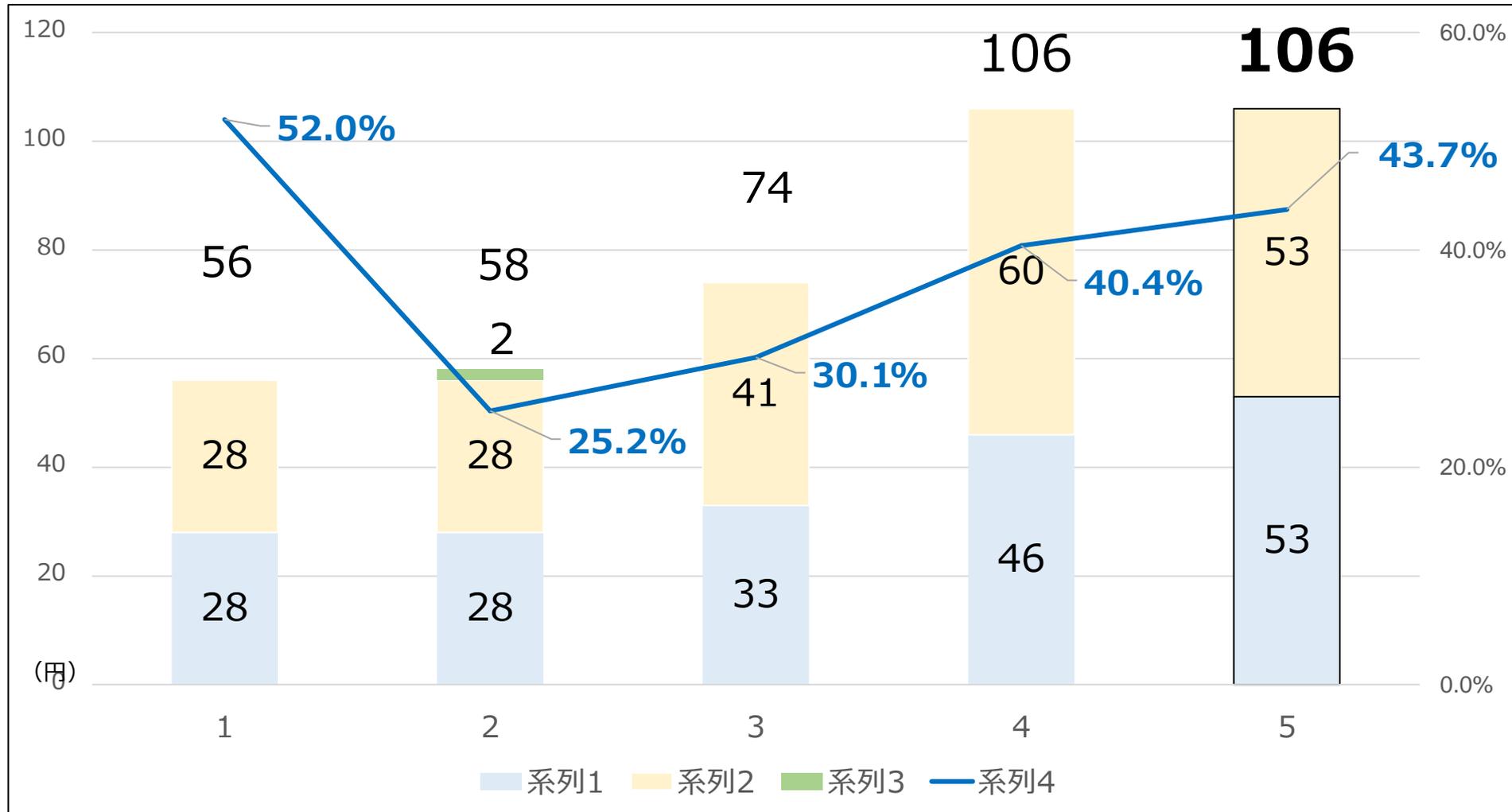
PERの改善

- ・サステナビリティに関する取り組みの推進
- ・IR活動の強化
- ・株主還元方針の明確化



配当金・配当性向の推移

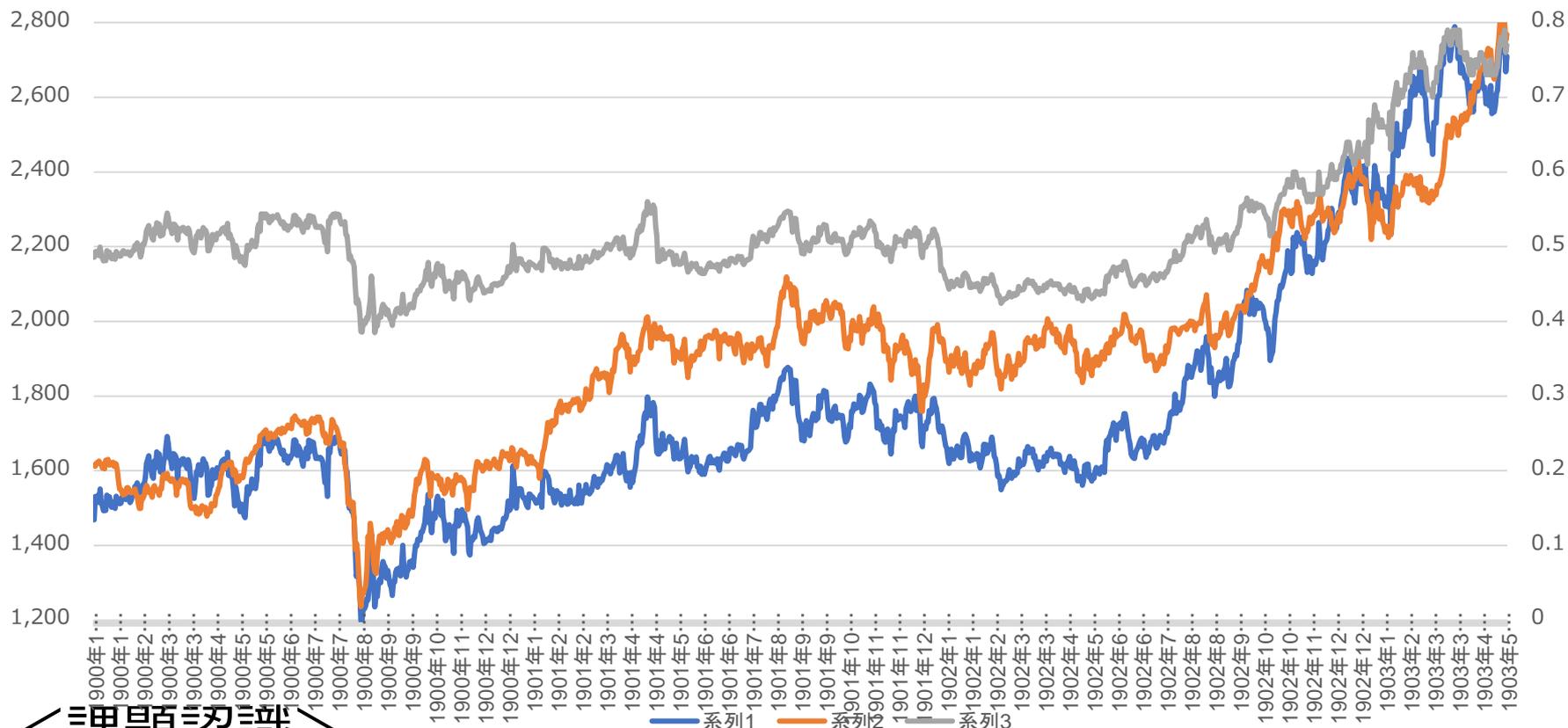
中長期的な安定配当は維持・継続しつつ、配当性向40%~60%を目安に還元



市場評価と資本収益性の現状分析



【市場評価】株価・PBR推移（過去5年）



<課題認識>

- ✓ 株価、PBRともに過去1年で上昇基調にある。
- ✓ 各種施策が奏功し市場での理解が進んでおり、引き続きPBR1倍超を目指す。

市場評価と資本収益性の現状分析と対応



【目標ROEと資本コスト】

5.76%		0.75		0.835		6.00%
株主資本 コスト	=	リスク フリーレート	+	β	×	市場リスク プレミアム

エクイティス
プレッドを拡
大へ



ROEは引き続き目標（8%超）の達成に向け取り組んでまいります。



資本コストや株価を意識した具体的施策と今後の予定

実施時期	目的	具体的施策
■ 2024年3月期の実績		
2023.7	PBR一倍超	資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応を開示
2023.8	情報の非対称性の解消など	IR専任部署を設置し情報開示を強化
2024.2	ガバナンスの強化	監査等委員会設置会社への移行を決議
2024.3	気候変動への取り組み強化	CDP「気候変動レポート2023」で「B」スコア取得
■ 2025年3月期の実績と予定		
2024.5	中長期視点での経営を後押しするインセンティブ導入	譲渡制限付株式報酬制度（RS）の導入を決議（株式報酬型ストックオプションは廃止）
2024.5	株主還元強化	3期連続増配を取締役会で決議
2024.6	多様性の確保とサステナビリティ経営の一層の強化	外国人取締役（再任）に加え女性取締役を複数選任。
2024.6	資本コストや株価を意識した経営の実現を推進・加速	役員報酬制度のKPIを変更
2024.9	経営方針及び事業の理解促進	統合報告作成、能動的なSR面談スタート

【2024年～2025年】事業ポートフォリオおよびキャッシュ・アロケーションなど含めた資本戦略を次期中期経営計画で開示予定

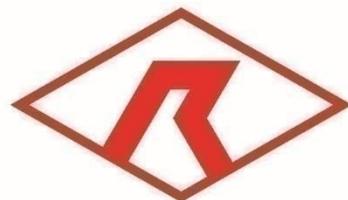


過去5年間の各種指標推移

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
売上高（百万円）	230,087	196,841	229,126	260,303	259,008
営業利益（百万円）	5,559	3,415	7,062	9,380	8,326
経常利益（百万円）	5,758	3,653	7,285	9,077	8,236
親会社株主に帰属する 当期純利益（百万円）	3,860	2,343	5,004	5,366	5,736
営業利益率（%）	2.4	1.7	3.1	3.6	3.2
ROE（%）	5.8	3.4	6.9	7.0	6.9
PBR（倍）	0.42	0.51	0.50	0.51	0.68
一株当たり純資産額 （円）	3,104.00	3,208.01	3,427.24	3,652.29	3,976.49
期末株価（円）	1,297	1,649	1,704	1,870	2,710

**RYODENグループは
100年企業として
環境・安心・安全で
サステナブルな社会の実現に
貢献します**

※中期経営企画「ICHIGAN2024」で掲げたビジョン：2050年の当社の目指す姿です。



RYODEN

〒170-8448 東京都豊島区東池袋3-15-15

総務部 IRグループ

e-mail:ryoden_ir@mgw.ryoden.co.jp

TEL:03-5396-6112

FAX:03-5396-6448

資料の取り扱い上のご注意

このプレゼンテーションで述べられている業績計画等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。その要因のうち、主なものは以下のとおりです。

- ・主要市場（日本、アジア等）の経済状況、消費動向及び製品需給の急激な変動
- ・ドル等の対円為替相場の大幅な変動
- ・資本市場における相場の大幅な変動等